

QUADRAL

# AURUM RODAN 9

スピーカーシステム ¥1,000,000(ペア・税別)

**Profile** ドイツの老舗スピーカーブランド、クアドラルのハイエンドラインであるAURUMシリーズが第9世代を迎え、3種類の新型スピーカーが登場した。AURUMシリーズ自体は、1981年に初代モデルが誕生以来、革新的な技術を次々に投入し続け、大きな話題を提供してきた。今回の AURUM 9 シリーズの開発では、「いかにして音楽の感動を奪い起させるスピーカーに仕上げるか」という観点を最重視し、ドライバユニット、ネットワーク、構造、仕上げなどスピーカーを構成する全ての要素においてプラスアップを実現している。本項ではその実力を石原俊が体験。先行輸入されたフロア型の「AURUM RODAN 9」とブックシェルフ型の「AURUM SEDAN 9」の2モデルを中心にその実力を探っていこう。

## Specifications

●型式:3ウェイ・バスレフ型トールボーイスピーカー ●定格入力:180W ●ミュージックパワー:300W ●再生周波数帯域:28Hz~65,000 Hz ●クロスオーバー周波数:250Hz/3,500Hz ●音率(dB/1W/1m):86dB ●インピーダンス:4Ω ●トゥイーター:quadsense(リボン型) ●ミッドレンジ:155mmΦquadral ALTIMA ●ウーファー:2×155mmΦquadral ALTIMA ●レベルコントロールトゥイーター±2dB ●サイズ:220W×350D×990Hmm ●質量:31.5kg(1本) ●取り扱い:ネットワークジャパン(株)

●本機の位置付け  
生産拠点を国内にシフトし  
大きく進化したユニット群

クアドラルはドイツのハノーファーに本拠を置くスピーカーメーカーで、五十年近い歴史を有する。そのクアドラルが新しいAurum 9シリーズをリリースした。旧Aurum 8シリーズから大きく変わったのは、生産拠点がドイツ国内に絞られたことだ。その結果としてコストが上昇し、大幅な値上げを余儀なくされたが、Aurumシリーズのような高級品は政治経済状況が不安定な地域よりも、日の行き届く国内で製造する方が様々な意味で信頼されやすいと判断したのだろう。

技術的に大きく進化を遂げたのはドライバユニットだ。Aurumシリーズの象徴ともいいくべきリボントゥイーターの振動板が従来よりも垂直方向に短く、水平方向に長くなっている。また振動板の素材が、アルミニウムにチタニウムとマグネシウムを蒸着したものから純アルミニウムに改められた。ハウジングにもメスが入つており、より強度が取れるようになり、ウーファー系も一新されてきた。ウーファー系も一新されてい。周波数帯域こそ広くなるも

●エンクロージャー内の  
空気圧と振動板を最適化

先行輸入されるのは「Aurum Rodan 9」と「Aurum Sedan 9」の2モデルだ。「Rodan 9」は3ウェイ/4ドライバユニットのフロントバスレフを持つトールボーイ型機である。Aurum 9シリーズのリボントゥイーターはやや大きいタイプとやや小さいタイプの二種類が用意されているのだが、ROD AN 9には後者が使用されている。スコーカーとウーファー×2はいずれも155mm口径のものだ。2発のウーファーは奥まった位置に取り付けられているように見えるが、これはエンクロージャー内の空気圧と振動板の動作を最適化するための処理である。

一方の「Sedan 9」はリアにバスレフダクトがマウントされた2ウェイ・ブックシェルフ型機だ。トゥイーターはやや大きいタイプが使用されている。ウーファー

●「RODAN 9」の魅力  
演奏家が見えるような  
立体的サウンドが深化

まずは「Rodan 9」を聴いた。視覚的な音である。まるで演奏家が見えるかのようだ。彫刻的な音もある。以前からクアドラルのスピーカーは立体的なサウンドを有していたが、それがさらに深化している。エネルギーバランスはスカイツリー型とピラミッド型の中間に位置しており、低音楽器の鳴りっぷりがすこぶる良い。

リボントゥイーターの全面改良による効果は絶大で、以前のAurum 8系よりも音場が清潔で演奏家の気配感が濃厚だ。だから情報量は非常に多い。ただしディテールを出しつぱなしにするのではなく、ここにこんなに面白い音楽的因素があるから聴いてみてください、とガイドをしててくれるような振る舞いをする。それでいて楽曲、演奏に介入することはない。

ジャズはリボントゥイーターつきのスピーカーとは思えないほどエネルギー的に鳴る。それでいて全くうるさくなく、濃密な音場感が保たれる。試聴室的な大音量でも緻密さはいさぎよくも後退せず、

“音楽の感動”を極限まで追求した  
ドイツ生産の第9世代シリーズが誕生

Text by  
石原俊  
Shun Ishihara

Photo by 田代法生



QUADRAL  
AURUM 9 Series

リボントウイーターの改良効果は絶大  
圧倒的な情報量を引き出しながら  
清潔な音場で、演奏家の気配感が濃厚

今人気のイタリア人指揮者、アン  
ドレア・バッティストーニとRA  
I国立響によるチャイコフスキイ  
の交響曲第五番を聴いたのだが、  
これはなかなか良い。ホーン型ス  
ピーカーのような不ツトリと耳に  
絡みつくような鳴り方こそしない  
ものの、分厚いハーモニー大切な  
くもエキゾティックなメロディが  
感動的に表現される。

●「SEDAN9」の魅力  
ひとまわり大きい振動板の  
リボントウイーターが特徴

次に「Sedan9」を聴いた。



写真右が「RODAN9」、  
左が「SEDAN9」のリア部。  
「SEDAN9」はダクトが後面に配置されている

Details



AURUM 9シリーズに搭載されているリボントウイーター。従来のタイプに比べて、垂直方向を短くし、水平方向の幅を広げている。これにより65kHzまでの超低歪で過渡応答特性に優れた高域を実現



AURUM9シリーズのフロ  
ア型のエンクロージャー。  
内部構造はもちろん、ポートやバスリフレックスアウト  
レットなどの各パートの連携  
をチューニングすることで、  
ダイヤフラム前面と、背面  
の負荷を完全にバランスさせることに成功した

試聴音源



- Ⓐ [CD]「フルツNO.4」大槻祐子トリオ(寺島レコード/TYR1054)
- Ⓑ [CD]「WILTON'S MOOD」山本玲子(vib)皆川太一(g)小美濃悠太(b)松尾明(ds)寺島レコード/TYR-1046
- Ⓒ [CD]「you are there」ヒラリー・コール VICTOR/VICJ61617
- Ⓓ [SACD]「ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(ヴァーグ版 第2稿)」ヨナサン・ノット指揮、東京交響楽団(オクタヴィア・レコード/OVCL-00608)

ユニークな声質につきまとう一種のキタナっぽさをリボンの清潔さに引つ張らず、ありのままに表現する。ヘイリー・ロレンのような素直な声質が素直に表現されることは言ふまでもない。

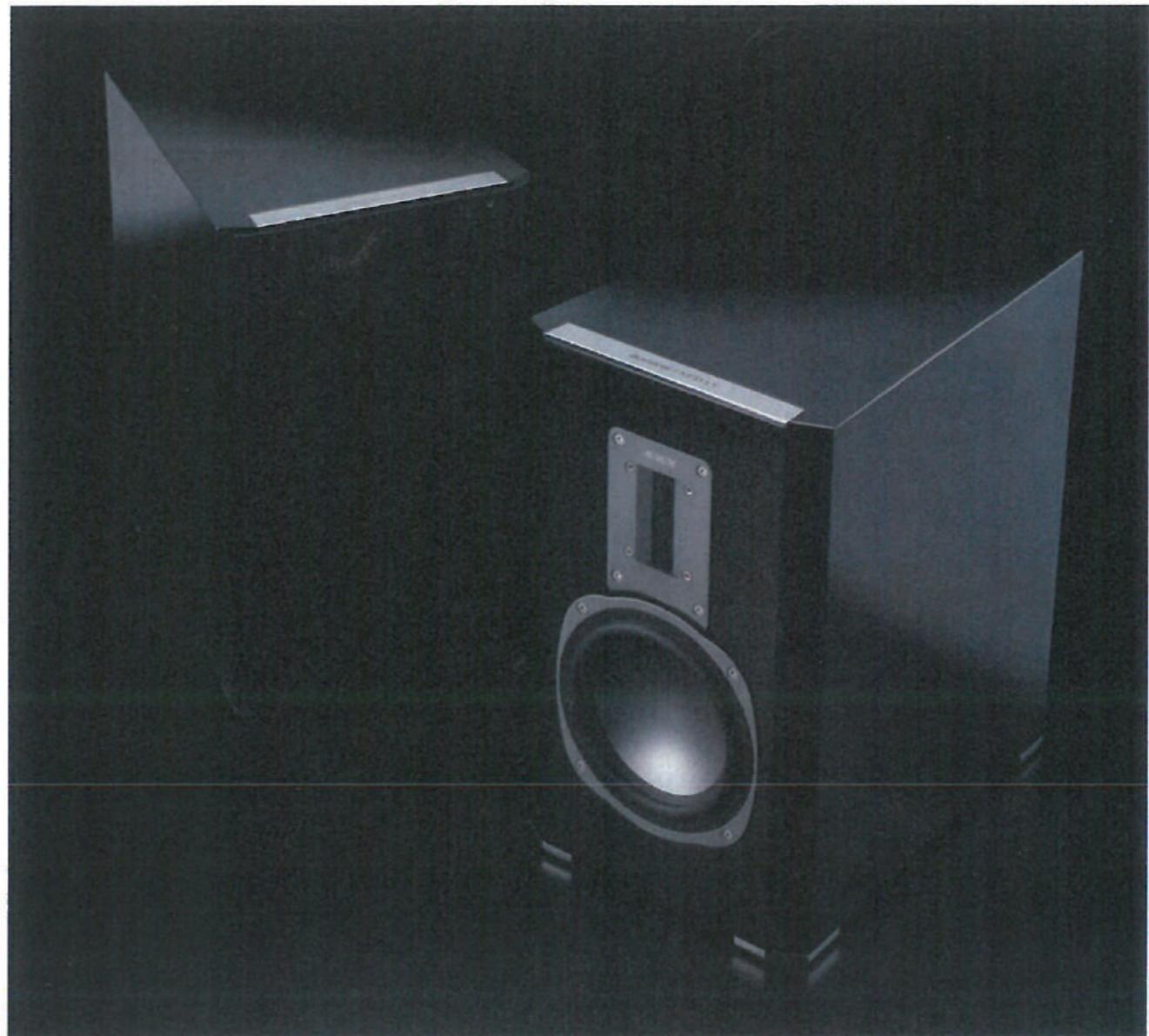
リボン型機の場合、「クラシックは××」と一括りにできない。というのも清楚な表現を基調とするリボン型機は、総じてバロック時代の楽曲に強く、ロマン派時代の音楽に弱いからだ。まずはバロック時代の声楽入りの曲を聴いてみる。これはすばらしい。清楚で清潔な音場に、多声部のメロディが抜群の分解能で極めて美しく浮かび上がる。「結構なお占前ですなあ」と「走りたくなる。ではロマン派のコテコテの曲はどうか。昨

ソロの裏で活躍する楽器が明瞭に提示される。リズムセクションの表現も明瞭で、ハイハットの開閉による空気の動きを体感的に伝えてくれたのには恐れ入った。

ヴォーカルはバラエティ豊かで

## QUADRAL AURUM SEDAN 9

スピーカーシステム  
¥570,000(ペア・税別)



Specifications

- 型式: 2ウェイ・バスレフ型ブックシェルスピーカー ● 定格入力: 120W ● ミュージックパワー: 180W ● 再生周波数帯域: 33Hz ~ 65,000Hz ● クロスオーバー周波数: 2,800Hz ● 能率 (dB/1W/1m): 85dB ● インピーダンス: 8Ω ● ティーオー: quadral quSENSEリボン型 ● ウーファー: 180 mmΦ quadral ALTIMA ● レベルコントロール: ティーオー2dB ● サイズ: 230W×350D×390Hmm ● 質量: 14.5kg (1本) ● 取扱い: ネットワークジャパン(株)